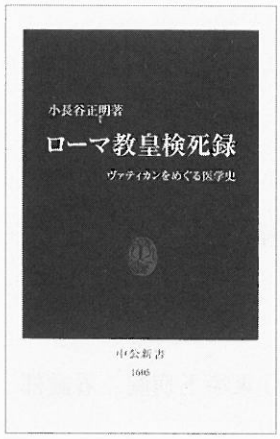
図書紹介

ローマ教皇検死録
—ヴァティカンをめぐる医学史—



中央公論社　中公新書　2001年

国立病院機構鈴鹿病院　院長
小長谷正明

筆者はカトリック教徒でもないのに，ローマ巡礼の気分で2000年の大聖年にヴァティカンを訪れた．大聖堂の前のサン・ピエトロ広場でご存命だった教皇ヨハネス・パウルス２世の説教を拝聴し，震える手とおぼつかない足取りからやはりパーキンソン病と一瞥診断したものの，来るべき第三千年紀の人類への祝福と平和を訴える声に感動した（もちろん，ラテン語は分からないので，翌日の新聞で内容を知っただけだが・・）．その晩，買い求めたモノグラフをめくっているうちに，マラリアや熱病で亡くなった教皇が多いことに気づき，帰国してからヴァティカンにまつわる医学史を調べてみた．

マラリアやペストなどの感染症とカトリックあるいは「神の代理人」たちは深く関わっていたし，コロンブスのアメリカ発見の年に教皇に輸血を試みた記録があり，さらには眼科の医師から教皇になった人もいた．女教皇ヨハンナ伝説から女性とキリスト教，魔女狩りの問題なども考えながら，一冬の間，中世の世界に心をワープさせつつ，キーボードを打ち続けた（若い頃に，こんな調子で論文がスラスラと書けていたなら，もっとまともな医学者になれていたはずだと心密かに今も思っている）．

福音書に書かれているイエス・キリストの奇跡を，医学的な目で疑ってかかっているような異教徒が，このような本を書くのはおこがましいのかもしれない．しかし，医学・医療の問題は歴史の流れの色濃い背景であるというよりは，人が生物である以上，パンデミックな感染症や病気・身体への考え方は歴史そのものとも言える．それに，ヨハネス・パウルス２世はガリレオへの迫害を謝罪し，ダーウィンの進化論まで認めたことだから，きっと筆者がこの本を書いたことも許されるにちがいないと思っている．

図書紹介　原稿募集

このコーナーへの投稿をお待ちしております．ご執筆された著書などの紹介を掲載しています．600～1000字程度で編集室までお寄せください。

〒152-8902　目黒区東が丘２－５－１
国立医療学会誌「医療」編集室「図書紹介コーナー」係宛
e-mail：iryo@kankakuki.go.jp
Fax：03-3411-9421